

第 2 章 分担研究報告書

母子保健情報を利用した「健やか親子21（第2次）」推進のための 環境整備に関する経過報告

研究代表者	山縣 然太朗（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）
研究分担者	山崎 嘉久（あいち小児保健医療総合センター）
	松浦 賢長（福岡県立大学看護学部）
	上原 里程（京都府立医科大学地域保健医療疫学）
	永光 信一郎（久留米大学小児科学講座）
	横山 美江（大阪市立大学大学院看護学研究科）
	鈴木 孝太（愛知医科大学医学部衛生学講座）
	市川 香織（東京情報大学看護学部看護学科）
	近藤 尚己（京都大学大学院医学研究科）
	川口 晴菜（大阪母子医療センター）
研究協力者	堀内 清華（山梨大学大学院総合研究部医学域附属出生コホート研究センター）
	秋山 有佳（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）

本研究班は、令和元年8月に取りまとめられた「健やか親子21（第2次）」の中間評価で明らかとなった新たな課題の解決に重要と考える多職種、他施設、異なる課間の連携を促進すべく、モデル事業の実施や、連携に必要なとってくる情報利活用をさらに促進させていくことを目的とし、令和元年度から始まった。本稿では、本年度の母子保健情報を利用した「健やか親子21（第2次）」推進のための環境整備について、本研究班による検討会議等の実施に関する経過を報告する。

本研究班では、「健やか親子21（第2次）」の中間評価に資する課題の整理」「母子保健領域の「知」のデータベースの構築」「乳幼児健診情報システムの改修」「全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築」の4つに取り組むこととなっている。昨年度に健やか親子21（第2次）の中間評価を終え、それに伴った乳幼児健診情報システムの改修も終了したため、本年度は主に「母子保健領域の「知」のデータベースの構築」と「全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築」に取り組んだ。

「母子保健領域の「知」のデータベースの構築」では、昨年度の会議で検討した分野について担当者が各々調べたデータをもとに、さらに議論を重ね掲載内容を充実させた。現在は50本の原稿を掲載し、試験的に閲覧できるようになっている。本データベースの使用対象者は保健従事者を想定しており、彼らが相談支援を行う際に使用してもらうことで、科学的根拠に基づいた子育ての促進に寄与できると考える。

「全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築」では、分担研究者各々の研究がこれに寄与している。利活用実践ガイドラインの作成に向け、京都府で母子保健領域における情報利活用の現状と課題についての聞き取りを行い、全国調査も行った。また、大阪府と東京都で

ハイリスク妊婦の抽出のための問診票・チェックリストの作成および、産科医療機関と自治体との連携に関する研究を進め、行政との連携につなげるためのカットオフ値等の検討を行った。今後はそのカットオフ値を参考に、新たな産科医療機関での調査を開始する予定である。

以上のように、徐々にモデル地区での実践活用が勧められており、最終年度となる来年度はこれらを取りまとめ、汎用性の高い利活用モデルの構築、提示を目指していきたい。

A. 目的

「健やか親子21（第2次）」が開始されてから6年が経過した。平成25年度に実施された「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会において、母子保健事業の推進のための母子保健情報の利活用が不十分とされ、「問診内容等情報の地方公共団体間の比較が困難なこと」、「情報の分析・活用ができていない地方公共団体があること」、「関連機関の間での情報共有が不十分なこと」という課題が挙げられた。

これらの課題を受け、我々は平成28～30年度において「母子保健改善のための母子保健情報利活用に関する研究」班（研究代表者：山縣然太郎）として、「健やか親子21（第2次）」の課題である母子保健領域における格差の是正および母子保健情報利活用の推進のため、乳幼児健康診査（以下、乳幼児健診）を中心とした市町村事業のデータの利活用システムの構築と母子保健情報利活用のガイドラインを作成するなどして、母子保健情報利活用の促進に尽力してきた。そして、令和元年度には「健やか親子21（第2次）」の中間評価が行われ、「十代の自殺」「児童虐待」「妊産婦、産後の父親のメンタルヘルス」など、多くの新たな課題が明らかとなった。本研究班では、これまでの研究活動に加え、新たな課題の解決に重要と考える多職種、他施設、異なる課間の連携を促進すべく、モデル事業の実施や、連携に必要となってくる情報利活用をさらに促進させていくことを目的としている。

本稿では、本年度の母子保健情報を利用した「健やか親子21（第2次）」推進のための環境整備について、本研究班による検討会議等の実施に関する経過を報告する。

B. 方法

令和2年度は、研究班全体の会議（班会議）を2回、利活用実践ガイドライン作成に向けた会議を1回、「知」のデータベース（現：子育て相談を支援するデータベース）作成に関する会議を1回実施した。会議の日程と予定した内容は次の通りである。

【班会議】

- 第1回班会議：令和2年5月18日（月）
（時間：17：00～18：00 場所：Web）

《検討内容》

- 1) 今年度の研究計画内容について
- 2) 「知」のデータベースの進捗状況の確認及び不足事項の確認
- 3) 「知」のデータベースの今後の予定
- 4) 公衆衛生学会における自由集会について

- 第2回班会議：令和2年1月22日（金）
（時間：10：30～12：00 場所：Web）

《検討内容》

- 1) 知のデータベース（子育て相談を支援するデータベース）の進捗状況
- 2) 利活用実践ガイドラインの進捗状況

【「利活用実践ガイドライン」作成に関する会

議]

日時：令和2年7月27日（月）

18：00～21：00

場所：Web

≪検討内容≫

- 1) 母子保健情報利活用ガイドラインについて
- 2) 利活用実践ガイドライン作成について

【「知」のデータベース作成に関する会議】

日時：令和2年9月11日（金）

16：30～18：00

場所：Web

≪検討内容≫

- 1) データベース掲載内容についての検討

（倫理面への配慮）

本研究班は、山梨大学医学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C. 結果

【班会議】

● 第1回班会議検討内容

日時：令和2年5月18日（月）

（時間：17：00～18：00）

場所：Web（Zoom）

≪検討結果≫

1) 今期の研究計画内容について

(1) 本研究班の目的

本研究の目的は、健やか親子21（第2次）の目標達成や新たな課題に関する科学的知見の収集・提案をすることと、効率的効果的な母子保健事業の実施に資する普及可能な汎用性の高い利活用モデルを構築すること。

(2) 研究計画

※下線部分は令和元年度実施内容

■ 母子保健領域の「知」のデータベースの構築

- ・ 母子保健・医療情報データベースの見直し（2019～2020年度）

＜分担：鈴木、近藤、山縣＞

- ・ 新たな母子保健領域の「知」のデータベースの構築（2021年度）

＜担当＞

行政・一般向け：横山、上原、山縣

学術・専門家向け：鈴木、市川、川口、山縣

■ 全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築

- ・ モデル事業による情報基盤整備（2019～2021年度）

1) 全国で5か所程度の母子保健情報利活用モデル事業を実施。

＜担当：山縣、山崎、上原、松浦、研究協力者＞

2) 医療機関、企業、研究機関等と連携して母子保健情報を活用している自治体の実地調査を行い、実施方法、予算、人材、活用方法、効果などについてまとめる。

＜担当：横山、川口、上原、山崎、永光、鈴木、山縣＞

- ・ 母子保健情報利活用実践ガイドラインの作成（2021年度）

＜担当：全員＞

2) 「知」のデータベースの進捗状況の確認及び不足事項の確認

- ・ 各テーマについて、担当の先生方から進捗状況を報告していただき、意見交換、不足事項について検討。

3) 「知」のデータベースの今後の予定

時期	内容
5月	進捗状況の確認、不足事項の検討。データベースの基本デザインを決める。
6月	原稿執筆作業。
7月	原稿〆切（上旬）。原稿をまとめる。
8月	いくつかの市町村保健師等に原稿内容についての意見を求める。
9月	データベースの構築依頼。市町村保健師等の意見を参考に内容の修正・追加。
10月	
11月	データベース試験運用開始。
12月	本格運用開始。

3) 公衆衛生学会における自由集会について

今年度も引き続き、毎年秋に開催される公衆衛生学会（第79回日本公衆衛生学会学術集会：京都・Web）における自由集会で「健やか親子21」に関する会を開催することに決定した。表題は「第79回日本公衆衛生学会学術総会自由集会～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く 健やか親子21（第2次）」とし、世話人を山縣然太郎（山梨大学）、上原里程（京都府立医科大学）とした。内容は、2019年12月1日から施行されている成育基本法のもとの健やか親子21（第2次）の在り方について議論することとした。なお、公衆衛生学会における自由集会についての報告は、後述の分担研究報告書（第79回日本公衆衛生学会学術総会自由集会～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く 健やか親子21（第2次）第6回および、シンポジウムについての開催報告：堀内清

華）で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

● 第2回班会議検討内容

日時：令和2年1月22日（金）

（時間：10：30～12：00）

場所：Web（Zoom）

1) 内容

「知」のデータベース、および利活用実践ガイドラインの進捗状況についての情報共有がされた。

【「利活用実践ガイドライン」作成に関する会議】

日時：令和2年7月27日（月）

18：00～21：00

場所：Web（Zoom）

《検討結果》

1) 母子保健情報利活用ガイドラインについて

- ・「母子保健情報利活用ガイドライン」は公には出していない。
- ・第2版として広く世に出していきたい。
- ・近いうちにこちらの内容についても意見を伺いたい。

2) 利活用実践ガイドライン作成について

- ・9月下旬に次の会議開催予定。
- ・各分担研究者において実践例としてどのくらいピックアップできるか探していただく。
- ・実践例として確認していただく項目は添付ファイル（Excel）をご確認ください。
- ・次回の会議時に上記の情報を持ち寄って具体的な検討を行う。

【「知」のデータベース作成に関する会議】

日時：令和2年9月11日（金）

16：30～18：00

場所：Web（Zoom）

《検討結果》

データベース全体について

- ・データベースの対象範囲を就学前だけでなく、就学児童・生徒まで広げる。
- ・エビデンスレベルの提示とエビデンスがないものについてはないことも示す。
- ・回答については、母親への質問に回答するような内容で書くようにする。

各項目について

- ・ソーシャルキャピタル
親と子どもの関係性に注目するといいいのではないか。ひきこもりについては、定義をはっきりさせる必要がある。
- ・歯科
産婦人科ガイドライン 2020 の参照。
フッ素塗布の効果についても追加を検討。
- ・ベビーマッサージ
スキンケアについても言及する。
- ・多胎
平均出産週数については要検討。
- ・発達
乳幼児期のほめることについても追加。

D. 考察

本研究班では、「健やか親子21（第2次）の中間評価に資する課題の整理」「母子保健領域の「知」のデータベースの構築」「乳幼児健診情報システムの改修」「全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築」の4つに取り組むこととなっている。昨年度に健やか親子21（第2次）の中間評価を終え、それに伴った乳幼児健診情報システムの改修も終了したため、本年度は主に「母子保健領域の「知」のデータベースの構築」と「全国へ普及可能な汎用

性の高い利活用モデルの構築」に取り組んだ。

本稿では、上記母子保健情報を利用した「健やか親子21（第2次）」推進のための環境整備について、本研究班による検討会議の経過報告を行った。

「母子保健領域の「知」のデータベースの構築」では、昨年度の会議で検討した分野について担当者が各々調べたデータをもとに、さらに議論を重ね掲載内容を充実させた。現在は50本の原稿を掲載し、試験的に閲覧できるようになっている。本データベースの使用対象者は保健従事者を想定しており、彼らが相談支援を行う際に使用してもらうことで、科学的根拠に基づいた子育ての促進に寄与できると考える。

「全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築」では、分担研究者各々の研究がこれに寄与している。情報利活用実践ガイドラインの作成に向け、京都府と福岡県で母子保健領域における情報利活用の現状と課題についての聞き取りを行った。また、大阪府と東京都でハイリスク妊婦の抽出のための問診票・チェックリストの作成および、産科医療機関と自治体との連携に関する研究を進め、行政との連携につなげるためのカットオフ値等の検討を行った。今後はそのカットオフ値を参考に、新たな産科医療機関での調査を開始する予定である。

以上のように、徐々にモデル地区での実践活用が勧められており、最終年度となる来年度はこれらを取りまとめ、汎用性の高い利活用モデルの構築、提示を目指していきたい。

E. 結論

本稿では本研究班が今年度行ってきた母子保健情報を利用した「健やか親子21（第2次）」推進のための環境整備について報告した。会議を通し、「知」のデータベースや利活用実践ガイドラインの掲載内容の検討が進んだ。今後は

これらの検討内容を詰め、来年度の完成を目指す。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Shinichiro Nagamitsu, Masakazu Mimaki, Kenshi Koyanagi, Natsuko Tokita, Yoriko Kobayashi, Ritsuko Hattori, Ryuta Ishii, Michiko Matsuoka, Yushiro Yamashita, Zentaro Yamagata, Takashi Igarashi, Paul E Croarkin: Prevalence and associated factors of suicidality in Japanese adolescents: results from a population-based questionnaire survey. BMC Pediatrics 20(1): 467. 2020. 10
- 2) 山縣然太朗:成育基本法による健やか親子21の推進に期待を込めて. 母子保健情報誌 (5) : 52-55. 2020. 2. 28
- 3) 山縣然太朗:「健やか親子21 (第2次)」中間評価. 小児内科 52 (5) : 632-636. 2020. 5
- 4) 山縣然太朗:「健やか親子21 (第2次)」中間評価における目標値の変更と新たな目標値について (2020. 2. 16 開催シンポジウム). 日本医師会雑誌 149 (3) :569-571. 2020. 6
- 5) 山縣然太朗:成育基本法と健やか親子21. 小児内科 52 (12) : 1720-1724. 2020. 12

2. 学会発表

- 1) 山縣然太朗, 秋山有佳, 山崎嘉久, 上原里程, 松浦賢長, 市川香織, 永光信一郎: 健やか親子21 (第2次) 中間評価と今後. 第67回日本小児保健協会学術集会. 2020年11月4日-6日. Web開催 (久留米大学)
- 2) 山崎さやか, 篠原亮次, 秋山有佳, 山縣然

太朗: 乳幼児を持つ母親の育児の孤立化: 健やか親子21最終評価の全国調査より. 第67回日本小児保健協会学術集会. 2020年11月4日-6日. Web開催 (久留米大学)

- 3) 山縣然太朗:成育基本法と健やか親子21 (シンポジウム A4-4 座長). 第79回日本公衆衛生学会総会. 2020年10月20日 14:40-16:10. Web開催

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし